

【管理運営状況公表様式】

平成24年度 青森県男女共同参画センター及び青森県子ども家庭支援センター（アピオあおもり）の管理運営状況

県所管課	環境生活部青少年・男女共同参画課 健康福祉部こどもみらい課
指定管理者	アスタクグループ 代表者である構成員 株式会社 阿部重組 芝管工 株式会社 青森コミュニティビジネス株式会社
指定期間	平成24年4月1日～平成27年3月31日

1 管理業務の実施状況

(1) 青森県男女共同参画センター

業務区分	概要
情報事業	男女共同参画を推進するための情報を収集、蓄積、提供する情報ライブラリーについて、購入図書を選定やテーマ展示、出前貸出等の工夫を行った。また、ホームページの随時更新のほか、Twitter や Facebook 等を活用しながら、最新の情報を発信した。
地域パートナーセッション（H23 まで「オープンカレッジ」）	広く県民に男女共同参画の意義を普及啓発するため、地域における男女共同参画推進ネットワークと市町村が連携し、講演会やワークショップ等を県内2箇所（弘前市、十和田市）で実施した。
情報誌発行事業	男女共同参画の視点に立った情報誌を発行した。県民のワーク・ライフ・バランス事例を取り上げたほか、市町村の情報を掲載し、男女共同参画を身近なものとして感じ取ることができる誌面構成とした。
相談事業	女性が直面している問題をジェンダーの視点で受け止め、解決に向けた支援を行った。また、相談事業の一環として「DV 被害者支援相談員研修会」を実施した。

(2) 青森県子ども家庭支援センター

業務区分	概要
情報提供事業	ホームページの運営等により、子どもと家庭に関する情報提供を行った。また、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりの推進のために、子育て支援に関する啓発情報誌を発行した。
活動支援事業	地域における総合的な子育て支援の推進を図るため、県内の地域子育て支援拠点関係者を対象に、子育て支援の基盤づくり・連携の強化に重点を置いた研修、実技向上のための講習会を開催した。また、子育て団体の学習会等に講師を派遣し、団体活動の活性化につなげた。
総合相談事業	子育ての悩みや子どもの問題など、子どもと家庭に関する様々な相談を電話及び面接で受け付け、解決に向けた支援を行った。
学習体験事業	児童図書室では、乳幼児から小学校低学年を対象とした児童図書やビデオ等の貸出を行った。また、子育てに生かせるよう、様々な学習・体験活動を開催し、親子のスキンシップを図った。
普及・啓発事業	社会全体で子育てすることの重要性を学ぶ機会を設け、子育て関連団体と協働し、交流とネットワークづくりを推進した。
調査・研究事業	わくわくあおもり子育てプラン推進に資するべく、安心して子育てができるよう、青森県親子に優しい街マップ（冊子版）「いっしょにね」

業務区分	概要
	を作成・提供した。

2 管理施設の利用状況

(1) 青森県男女共同参画センター、青森県子ども家庭支援センター共通

利用指標	年度	計画	実績	計画対比	前年度対比
貸館利用者数	H 2 1	85,000 人	79,414 人	93.4%	94.2%
	H 2 2	85,000 人	76,678 人	90.2%	96.6%
	H 2 3	85,000 人	85,708 人	100.8%	111.8%
	H 2 4	85,000 人	82,804 人	97.4%	96.6%
	H 2 5	85,000 人			
施設使用料収入	H 2 1	6,570,000 円	6,296,590 円	95.8%	100.0%
	H 2 2	6,570,000 円	6,196,655 円	94.3%	98.4%
	H 2 3	6,570,000 円	7,324,600 円	111.5%	118.2%
	H 2 4	6,570,000 円	6,923,645 円	105.4%	94.5%
	H 2 5	6,570,000 円			

(2) 青森県男女共同参画センター

利用指標	年度	計画	実績	計画対比	前年度対比
情報ライブラリー貸出件数	H 2 1	13,000 件	13,171 件	101.3%	111.8%
	H 2 2	14,000 件	13,646 件	97.5%	103.6%
	H 2 3	14,000 件	12,868 件	91.9%	94.3%
	H 2 4	14,000 件	12,627 件	90.2%	98.1%
	H 2 5	14,000 件			
地域パートナーセッション参加者数 (H23 まで「オープンカレッジ参加者数」)	H 2 1	募集定員の 95% (665 人)	730 人	109.8%	—
	H 2 2	募集定員の 100% (560 人)	728 人	130.0%	99.7%
	H 2 3	募集定員の 100% (662 人)	823 人	124.3%	113.0%
	H 2 4	募集定員の 100% (500 人)	600 人	120.0%	—
	H 2 5	募集定員の 100%			
情報誌読者アンケート満足度	H 2 1	5段階評価の 4.0	3.7	92.5%	—
	H 2 2	5段階評価の 4.0	4.0	100.0%	108.1%
	H 2 3	5段階評価の 4.1	4.3	104.9%	107.5%
	H 2 4	5段階評価の 4.1	4.0	97.6%	93.0%
	H 2 5	5段階評価の 4.1			

(3) 青森県子ども家庭支援センター

利用指標	年度	計画	実績	計画対比	前年度対比
情報誌活用度	H 2 1	活かせる・ためになった 90%	活かせる・ためになった 99.5%	110.6%	—
	H 2 2	活かせる・ためになった 95%	活かせる・ためになった 93.5%	98.4%	94.0%
	H 2 3	5段階評価の 4.0	4.3	107.5%	—
	H 2 4	5段階評価の 4.1	4.4	107.3%	102.3%

	H 2 5	5段階評価の 4.1			
手作りおもちゃ講習会参加者	H 2 1	100 人	107 人	107.0%	117.6%
	H 2 2	150 人	155 人	103.3%	144.9%
	H 2 3	150 人	131 人	87.3%	84.5%
	H 2 4	150 人	123 人	82.0%	93.9%
	H 2 5	150 人			
親子すくすくスキンシップ参加者	H 2 1	募集定員の 95% (1,315.8 人)	1,323 人 親子向け 1,245 人 指導者向け 78 人	100.5%	—
	H 2 2	親子向け 募集定員の 98% (647 人)	親子向け 646 人	99.8%	51.9%
		指導者向け 募集定員の 95% (133 人)	指導者向け 136 人	102.3%	174.4%
	H 2 3	親子向け 募集定員の 100% (400 人)	親子向け 422 人	105.5%	65.3%
		指導者向け 募集定員の 100% (160 人)	指導者向け 165 人	103.1%	121.3%
	H 2 4	親子向け 募集定員の 100% (630 人)	親子向け 595 人	94.4%	141.0%
指導者向け 募集定員の 100% (230 人)		指導者向け 194 人	84.3%	117.6%	
H 2 5	募集定員の 100%				
子育て広場参加者	H 2 1	ホームスタート事業第 3 回 講座定員の 50% (10 人)	12 人	120.0%	—
	H 2 2	300 人	306 人	102.0%	—
	H 2 3	230 人	234 人	101.7%	76.5%
	H 2 4	募集定員の 100% (200 人)	120 人	60.0%	51.3%
	H 2 5	募集定員の 100%			

【増減理由】

・貸館利用者数、施設使用料収入について

施設の利用件数については前年度を上回ったものの、貸館利用者数については利用 1 件当たりの利用者数が減少したことにより前年度比 96.6%と減少し成果目標も達成できませんでした。

施設使用料収入については半数以上の研修室において利用時間が減少したことにより、前年度比 94.5%と減少したものの、成果目標を達成することができました。

・パートナーセッション参加者数、情報誌読者アンケート満足度について

パートナーセッション参加者数については、企画委員会に参画した登録団体の情報発信力が来場者増につながり、成果目標を達成することができました。

情報誌読者アンケート満足度については、市町村男女共同参画担当者を読者モニターに起用したほか、取材記事に力を入れる等内容の充実を図りましたが、成果目標を達成することができませんでした。

・手作りおもちゃ講習会参加者数

手作りおもちゃの実技とともに、子どもと遊ぶときの大人の姿勢等のワンポイントアドバイスを盛り込む等内容の充実を図り、県内3地区（青森市、弘前市、八戸市）で開催したものの、青森会場の参加者数が定員を割り込んだことから、成果目標を達成することができませんでした。

・子育て広場参加者

「子どもの心に届く言葉」をテーマに講演会を開催し、アンケート結果では92%の参加者から「大変満足」、「満足」の回答をいただきましたが、成果目標を達成することができませんでした。

3 評価結果

評価項目	指定管理者 自己評価	県所管課	
		評価	コメント
①サービスの維持・向上に向けた取組みが適切に行われているか。	4	4	全職員をローテーション勤務とし水準書以上のサービス提供に努め、職員マナーについては日常の注意喚起のほかに接遇対応マナー専門家研修を実施している。さらに、「ご意見箱」を設置し、利用者の意見・苦情把握に努め、サービスの維持・向上に向けた取組みが適切に行われている。
②利用促進に向けた取組みが適切に行われているか。	4	4	館内における催事案内表示はもちろん、ホームページにおいて施設の予約状況を情報提供しているほか携帯サイトやスタッフブログにより、利用情報提供の利便性向上に向けて取り組んでいる。また、近隣の小学校の施設見学に対応し感想文を掲示したり、冬期の通学路除雪に取り組むなど、地域住民との交流・連携にも積極的に取り組んでおり、利用促進に向けた取組みが適切に行われている。
③施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	3	3	建物、設備の維持管理や清掃業務を適正に実施するとともに、必要に応じて修繕等の措置をとり利用者の利便性と安全性が確保されている。また、備品管理については日常点検・確認を実施している。
④緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。	4	3	基本協定書の規定を遵守すべく職員の教育徹底を図っているほか、防災対応マニュアルを整備し緊急連絡システムの周知徹底を図っている。さらに、消防訓練を実施するなど、緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われている。

⑤指定管理料が適正に執行されているか。	4	4	管理業務及び両センターの事業は事業計画書に基づき実施され、指定管理料が適正に執行されている。また、管理標準を定め、光熱水費等の無駄の削減、経費節減に努めている。
⑥成果目標達成のための努力が行われ、成果が上がっているか。	4	4	一部達成できなかった指標項目があるものの、当初の目標を大幅に上回る指標項目があるなど、成果目標達成のための努力が行われ成果が上がっている。
⑦個人情報の保護に対する体制の構築・取組みを行っているか。	4	4	個人情報保護の重要性を踏まえ職員研修を実施し、不測の事態が発生した場合には館長等責任者が対応しているほか、(財)日本情報処理開発協会によるプライバシーマークを取得しており、職員は定期的に個人情報保護に関する研修を受講しており、個人情報の保護に対する体制の構築・取組みが適切に行われている。
総合評価	4	4	サービスの維持・向上、利用促進に向けた取組みが積極的に行われ、施設、設備の維持管理及び修繕が適切に行われている。 各項目について適切に実施され、総合して優れた実績をあげている。

○評価基準

- 5 (秀) : 業務水準書等の内容を上回り、特筆すべき実績をあげている
- 4 (優) : 業務水準書等の内容を上回り、優れた実績をあげている
- 3 (良) : 業務水準書等の内容が満たされている
- 2 (可) : 業務水準書等の内容が満たされず、一部改善を要する
- 1 (不可) : 業務水準書等の内容が満たされず、重大な改善を要する